

2025年度一般選抜 教科・科目の出題方針【大学】

金沢学院大学ではそれぞれの学部・学科での学びを通して、次のような力を身に付けることを目指しています。

1. 社会に存在する様々な課題に対し、的確な問題意識を持つ力（課題を発見する力）
2. これらの課題に対し、柔軟に発想し、解決策を考える力（課題に向き合う力）
3. 他者と協働して課題の解決に向かって行動する力（課題解決を実践する力）

これらの力を入学後に身に付けるために、高等学校段階までに備えておいてほしいことを科目別にまとめ、それを測るための入学試験の出題方針を下記の通り示します。

なお、科目試験の解答については、マークシート方式と記述式を併用しています。

英語

＜高等学校段階までに備えておいてほしい力＞

グローバル化が進む現代社会において、地域の様々な課題を解決するために外国語（英語）によるコミュニケーション能力の重要性が高まっています。英語を用いた実践的なコミュニケーションやより発展的な言語活動を行うために、英語の理解力（受信力）と表現力（発信力）を備えていることを求めます。語彙や文法などの基本的な知識を深めるとともに、英語の知識に基づく判断や状況に応じた表現の使い分けができるといった実践的な思考力を求めます。

＜出題方針＞

上記の備えておいてほしい力を測るため、英語では次のことを入学試験の出題方針とします。

- ・ 語彙や語法・熟語に関する問題を通して英語の基本的な力を測ります。
- ・ 自分の述べたいことを正しく英語で表現できる力（発信力）を測るために、並べ替え英作文と部分英訳を出題します。
- ・ 場面設定による対話の流れを完成させる問題で、コミュニケーションの文脈や場面・状況・目的に合った対応力を測ります。
- ・ 250語～300語程度の長文の空所補充問題を出題し、前後の文脈から適語を選ぶことで判断力と論理的な思考力を測ります。
- ・ 500語程度の長文を用いた問題で、英文の内容を正しく理解する能力（受信力）を測ります。

上記2つの長文で扱うテーマは、異文化理解・社会事情・世界の人々の生活など高校の教科書や授業でも扱われる一般的なものを想定しています。

国語

＜高等学校段階までに備えておいてほしい力＞

課題についての解決策を考え、それを他者とともに協力しながら解決に向けて実行するには、思考やコミュニケーションの手段となる「言葉」の力が求められます。具体的には言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、言語文化を踏まえて、基本的な語彙力と表現主体の主張を理解する力、そして自分の判断や考えを適切に表現する力を身に付けておくことを求めます。

＜出題方針＞

上記の備えておいてほしい力を測るため、国語では次のことを入学試験の出題方針とします。

- ・ 相手の主張を理解する力に関しては、3000字程度の文章を提示し、読解力を測ります。
- ・ 課題とする文章は、著者の考えが論理的に展開されたものだけでなく、著者の感性や想像力が織り込まれた文芸的な文章も出題し、抽象的な概念を正確に理解する力や、心理描写や情景描写の効果を読み取る力を測ります。
- ・ 文学科日本文学専攻と歴史学・考古学専攻は、入学後の学びに必要な「古文」も出題範囲となり、古語の意味や文法の理解、古典常識等を問うとともに、それらを踏まえて内容を正確に読み取る力を測ります。
- ・ 語彙力、さらに表現力を測るために、記述式の問題によって、自分の主張を文章で表現する問題も出題します。

数学(情報工学科対象/Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C)

＜高等学校段階までに備えておいてほしい力＞

人工知能等の先端情報技術が社会に広く実装される現代においては、複雑多岐にわたる課題の解決に向けて、数学的な論理的思考力の重要性が一層増大しています。大学教育を通じてこの高度な能力を修得するためには、高等学校で学ぶ数学の基礎的事項の正確な理解に加え、基本的な定理や公式を的確に適用する力をはじめとする幅広い数学的能力を体系的に身につけておくことを求めます。

＜出題方針＞

上記の備えておいてほしい力を測るため、数学では次のことを入学試験の出題方針とします。

- ・ 数学Ⅰ（数と式、データの分析、図形と計量、二次関数）、数学A（図形の性質、場合の数と確率）から1問出題します。
- ・ 選択問題として、数学Ⅱ（いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分の考え）、数学Ⅲ（極限、微分法、積分法）から1問ずつ出題します。
- ・ 数学B（数列）、数学C（ベクトル）から1問出題します。
- ・ 論理的思考の基礎が身に付いているかを基礎的事項に関する記述型の問題により測ります。
- ・ 基本的な定理や公式の知識を正しく適用できているかを空欄補充型の問題により測り

ます。

数学(情報工学科以外対象/ I・A)

＜高等学校段階までに備えておいてほしい力＞

人工知能等の先端情報技術が社会に広く実装される現代においては、複雑多岐にわたる課題の解決に向けて、数学的な論理的思考力の重要性が一層増大しています。大学教育を通じてこの高度な能力を修得するためには、高等学校で学ぶ数学の基礎的事項の正確な理解に加え、基本的な定理や公式を的確に適用する力をはじめとする幅広い数学的能力を体系的に身につけておくことを求めます。

＜出題方針＞

上記の備えておいてほしい力を測るため、数学では次のことを入学試験の出題方針とします。

- ・ 数学 I（数と式、データの分析、図形と計量、二次関数）、数学 A（図形の性質、場合の数と確率）から3問出題します。
- ・ 論理的思考の基礎が身に付いているかを基礎的事項に関する記述型の問題により測ります。
- ・ 基本的な定理や公式の知識を正しく適用できているかを空欄補充型の問題により測ります。

理科(生物基礎・化学基礎)

＜高等学校段階までに備えておいてほしい力＞

自他ともに健康的な生活を送り、それに必要な情報を理解し活用するために、生物および化学に関する基礎的な理解は必須と言えます。そのため、理科(生物基礎・化学基礎)においては、人間、健康、栄養、さらに人々を取りまく環境について学ぶ上で必要なことがらについての理解と、情報をもとに考える力を身に付けておくことを求めます。

＜出題方針＞

上記の備えておいてほしい力を測るため、理科(生物基礎・化学基礎)では次のことを入学試験の出題方針とします。

- ・ 生物基礎では、自他の健康について学ぶ上で必要な、生物の特徴やヒトの体の調節などについての理解を問います。
- ・ 生物基礎では、人々を取りまく環境について学ぶ上で必要な、生態系の成り立ちやその保全などについての理解を問います。
- ・ 化学基礎では、体を構成する物質・栄養素の性質やその変化を学ぶ上で必要な、物質の構成、物質の変化とその利用などについての理解を問います。
- ・ 与えられた情報を整理し、それをもとに推論する力を測ります。

理科(化学基礎・化学)

<高等学校段階までに備えておいてほしい力>

自他ともに健康的な生活を送り、それに必要な情報を理解し活用するために、物質についての基礎的な理解は必須と言えます。そのため、日常生活や社会との関連を図りながら、物質の構成や物質の状態、物質の変化、物質の性質などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作を身に付けておくことを求めます。

<出題方針>

上記の備えておいて欲しい力を測るため、理科(化学基礎・化学)では次のことを入学試験の出題方針とします。

- ・ 物質の構成や物質の状態、物質の変化、物質の性質などについての理解を問います。
- ・ 与えられた情報を整理し、それをもとに推論する力を測ります。

理科(物理基礎・物理)

<高等学校段階までに備えておいてほしい力>

情報工学を学ぶ基礎理論は、数学と共に物理学を土台としています。その学びの準備として、物理学の基礎的な思考法に加え、それを様々な問題に正しく適用できる能力を身につけていることを求めます。

<出題方針>

上記の備えておいてほしい力を測るため、理科(物理基礎・物理)では次のことを入学試験の出題方針とします。

- ・ 力学から1問出題します。
- ・ 電磁気から1問出題します。
- ・ 物理学的思考の基礎が身についているかを記述型の問題により測ります。
- ・ 物理学的思考を様々な問題に正しく適用できるかを空欄補充型の問題により測ります。

歴史(歴史総合,世界史探究、歴史総合,日本史探究)

<高等学校段階までに備えておいてほしい力>

まずわが国および世界の歴史について、グローバルな視点も踏まえながら、時期や年代、推移、比較、相互の関連を総合的にとらえる能力が必要です。これに加えて地理的条件や現代社会とも関連付けて考察する能力も重要です。このように総合的に歴史を考えていく力を養うに当たって基礎的な能力として、諸資料から様々な情報を理解しまとめる技能、さらにはそれらの能力や技能に基づく理解を効果的に説明できる能力が求められます。これらを踏まえて、社会に存在する様々な課題に対しても、グローバルな視点も踏まえた的確な問題意識を持ち、他者とともに協力しながら解決策を考えて行動する力を養ってほしいと思います。

<出題方針>

上記に即した学力を測るため、歴史では次のことを入学試験の出題方針とします。

- ・ 社会に存在する様々な課題に対して、主に18世紀以降の事象についてはグローバルな視点も含めた的確な問題意識を持ち、解決策を考えて行動するための基礎となる理解度ならびに思考力や判断力を問います。すなわちわが国および世界の歴史の大きな枠組みや歴史の展開に関わる諸事象について、時期や年代、推移、比較、相互の関連を理解し考察できているか、地理的条件や現代社会とのつながりとも関連付けながら、適切かつ総合的にとらえて理解し、思考・判断できるかなどを問います。また、これらについて文章で表現する力があるかも問うこととします。
- ・ 同様の趣旨から、史料や図・表・グラフ・地図などの諸資料から、様々な情報を的確に読み取り、適切かつ総合的に思考・判断できているか、またこれらについて文章で表現できる力があるかなどを問います。

実技

＜高等学校段階までに備えておいてほしい力＞

芸術学部芸術学科では、「実技」を選択することができます。

美術作品やデザインに触れる機会を積極的に持ち、興味を高める（意識）、基本的な構成力や形体描写力、空間表現力（技術）、対象物を観察する力（見る目）を身に付けておくことを求めます。

＜出題方針＞

上記の備えておいてほしい力を測るため、実技（鉛筆デッサン）では次のことを入学試験の出題方針とします。

- ・ 出題された複数のモチーフを組み合わせ、画面上に構成する力を測ります。
- ・ 与えられたモチーフをよく観察し、形を正確にとらえる力を測ります。
- ・ 複数の立体物を配置させることでできた陰影や奥行きなどの空間を表現する力を測ります。
- ・ 限られた時間内に描くことのできる集中力や描写力を測ります。